

ジャグラは一般財団法人日本情報経済  
社会推進協会指定のプライバシー  
マーク指定審査機関です



# GS

No.803  
2018  
10

## ■ 巻頭企画

シリーズ ジャグラ賛助会員に聞く⑤  
**富士ゼロックス(株)**

## ■ 特別企画

**個人情報漏洩事故の傾向と注意点**  
—— 平成29年度JIPDEC報告書から

## ■ 連載

シリーズ **需要創出を考える⑪**  
—— デジタルグラフィック(株) (兵庫)

## ■ NEWSとお知らせ

**関東複写センター協同組合が  
ジャグラの仲間になりました!**

## 業界の動き

- 大阪府支部が秋田でドローン研修
- 日印産連「印刷の月」式典ひらく
- SPACE-21全国協議会山梨大会開催





## なかむら通信

読者の皆様へ



ジャグリストの皆さん、こんにちは。会長の中村耀です。

「印刷の月」記念式典が9月12日、ホテルニューオータニにて開催され、日印産連表彰において、新潟の佐藤順さんが印刷功労賞を、大阪の岩下登さんと東京の林田桂一さんが印刷振興賞を受賞されました。また、環境優良工場表彰において長野の日本ハイコム株さんが会長賞を、長野の電算印刷株さんと福島共栄印刷株さんが奨励賞を受賞されました。改めてお祝い申し上げます。

そしてこの席でもう一つ嬉しいことがありました。それは特別賞として日本自費出版ネットワークが表彰されたことです。皆さんご承知の通り、日本自費出版ネットワークは長年、ジャグラ主催の日本自費出版文化賞を主管として支えてくださっている団体です。

書店に並ぶ出版物の売上が減少するなか、自費出版の創作活動は、日本の文字文化を支える社会貢献の一つにもなります。書籍のデジタル化が進んでおりますが、紙が持つ、手触りや温もり、行間から伝わる著者の想い、紙をめくるその所作の一つひとつを大切にしていかなければなりません。

今後も引き続き、ジャグラと日本自費出版ネットワークが手を携えて、自費出版文化を守り、発展させていきたいと考えております。

# C・O・N・T・E・N・T・S

### ● 巻頭言

## 01 健康、ストレス解消、そして優しい心、全て第一

—— ジャグラ副会長/株くまがい印刷 (秋田) 熊谷正司

### ● 巻頭企画

## 02 シリーズ ジャグラ賛助会員に聞く⑤

### 富士ゼロックス(株)

—— ニッチ型市場で多様化需要を取り込む  
キーワードは標準化、自動化、クラウド活用

### ● 特別企画

## 10 個人情報漏洩事故の傾向と注意点

—— 平成29年度 JIPDEC 報告書から

### ● 連載

## 06 シリーズ 需要創出を考える⑪

### 『兵庫津遺跡 第62次発掘調査報告書』

—— プリプレスから印刷現場まで総力を挙げて  
デジタルグラフィック株 (兵庫)

## 16 ジャグラコンテスト 第1次審査課題解説③

—— InDesign問題1:縦組み小冊子の制作

## 26 温孔知新⑳ 60年前の年賀状コンテスト (1959年版)

### ● NEWSとお知らせ

## 20 関東複写センター協同組合がジャグラの仲間になりました!

## 22 業界の動き

### 8.31 大阪府支部が秋田でドローン研修

### 9.8-9 SPACE-21全国協議会山梨大会開催 全国から93名の参加を得て盛況!

### 9.12 日印産連「印刷の月」式典ひらく ジャグラより三氏・一団体が受賞 環境優良工場表彰では三社が同時受賞

## 29 ジャグラBB HOTNEWS

07 コラム  
21 法親会のご案内  
28 事務局日誌と今後のスケジュール

# 健康、ストレス解消、 そして優しい心、全て第一

ジャグラ副会長/株くまがい印刷 (秋田) 熊谷正司



先日、古希のお祝いをしていただいた。この間、還暦のお祝いで赤いチャンchanコを着せていただいたと思ったら、あれからもう10年が経った。30代、40代と長い人生を経験してきて、この10年間でひととき短く感じられた。今後の10年はどのようなのか? 終活していくには余りにも早すぎるし、かといって現実にはそうもいかないのかもしれない。かつては、古希といったら老人中の老人で、還暦でも定年でお勤めご苦労様と言われた時代だ。しかし高齢化社会の今は、古希といったらまだまだ前期高齢者の若僧にすぎない。

若い時代に武道などで鍛えた体力や精神力も、ここ数年はだいぶ衰えてきている実感はある。しかし私たちの諸先輩を見ていると、まだまだ頑張らなければと感じる。お陰さまで病気とは仲良く付き合っている。20年前、たまたま宿泊ドックのエコー検査で腎臓がんが見つかった。右腎摘出でまずは助かり、その後再発もせず、ひとつの腎臓で頑張ってきた。

十数年前には自宅で心筋梗塞をおこし、救急車で運ばれながらも緊急手術で助かった。その際、心臓に金属のステントを5つも入れた。一昨年、そろそろ十年になるので、ステントの具合や、その後の経過を調べるため検査入院に入った。その結果、心臓の太い冠動脈が詰まりつつあるとの検査結果を聞いてびっくりした。左腿の静脈を心臓に移植するという心臓バイパス手術を受けた。この手術はあばら骨を開いての開胸手術で、全身麻酔で8時間にも及ぶ大手術だった。

大きな病気を抱えながらも、前向きに病気と仲良く付き合いながら今に至っているが、過去の自分の不摂生も今更ながら反省するところである。お陰さまで今が一番健康かもしれない。

私の周りにも大病の経験のある友人が沢山いる。しかし彼らと接する時、あらためて気持ちの持ち方の大切さをつくづく思えてならない。彼らはビックリするくらい病気と真正面から接し、仲良く前向きに進んでいることが分かる。私も、今後もしっかり健康に生きていければいいなと思っている。

私たちの道を築き上げてくださった先人達のことを、静かに思い浮かべることもある。ガリ版や孔版タイプからの我々の業界も、大変な時代から始まった。先人は生きるが為、食わんが為、家族を守る為に必死に仕事に明け暮れた。役場に行って総務係長にそのガリ版の仕事は私たちにやらせてくれ、そして係長は議会のために頭を使って、学校の先生には「学級文集などは業者さんにお願いします。先生は子供たちのため教育に専念して」と、自分たちの仕事をつくっていった。これがそもそも私たちジャグラの始まりでルーツなのだ。外部に仕事を委託する、いわゆるアウトソーシングの道を切り拓いたのである。

一般印刷物の需要が右肩下がりの続く現在、10年後、20年後の我々の経営環境を考えた場合、大きな難関をいくつも乗り越えなければならぬ現状は、皆が理解している。もはや我々は製造業としての印刷業から、脱却しなければならない。本当のお客さまから真のビジネスパートナーとして信頼を得るためには、製造業から抜け出し、サービス業としての我々が見えてくるはずである。私たちの真のお客さまとは、原稿を持ってきてくれる発注者のもとより、その先に存在する。年賀はがきを発注して下さるお客さまもさることながら、真のお客さまはその先の、年賀状を受け取る方なのだ。つまりその先にいる方がどのような気持ちで受け取るのか、それを知ってこそ製造業を脱却したサービス業としての我々があり、はじめてお客さまから真のパートナーとして認められるのである。

今後、私たちが次世代の若きジャグリストに伝えることは、「組織人としての大切さ」なのであろう。大きな組織の中でお互いを信頼尊敬しつつ、業界のライバルとして、また業界の友人として、知識を深め、広め、認識し、そして一歩一歩成長していく——これが組織人の良いところなのである。一匹狼として頑張るのも時には然りなのかもしれないが、進み続けて一段落して、ヒョット後ろを見たら誰もいなかった……ではあまりにも寂しい。お互いに信頼できる仲間を一人でも多く増やし、語り合い、学びあう、それがビジネスマンとしてのあるべき姿である。それが我々ジャグラなのである。

# 富士ゼロックス(株)

ニッチ型市場で多様化需要を取り込む キーワードは標準化、自動化、クラウド活用



富士ゼロックス(株)  
グラフィックコミュニケーションサービス事業本部  
Future Edge 推進部  
**杉田晴紀** 部長

(株)グッドクロス  
ジャグラPOD研究部会  
**原田大輔** 部会長

同社六本木ティーキューブにて



ジャグラ賛助会員企業にお話を伺うシリーズ、第5回目となる今回は、富士ゼロックス(株) (以下、ゼロックス) さんを、原田大輔 POD 研究部会長が訪ねてお話を伺いました。

×

## 印刷は設備集約型とニッチ型にスマート化は必須

■原田 まず、印刷市場とクライアントの現状、またデジタル印刷が求められる背景について伺います。

■杉田 デジタル印刷なのか、オフセット印刷なのかという前に、海外のゼロックスの社員から話を聞くと、ワークフローやデジタル、データベースが進んでいる欧米の先進国で、印刷会社の数が半分になっている事実は認識しておく必要があります。一方、残っている企業の収益性は上がっています。機械を売りたい私たちとしても影響は大きいものがあります。M&Aが増えている日本もそうなるかもしれません。

全体として先進国は設備集約型とニッチ型に分かれ

てくると思います。生産管理やファクトリーオートメーション、ICT、インダストリー 4.0 になった時に、Web to Print から物流までどんどん投資して物量で勝負するところが設備集約型です。規模では戦わずにデジタル技術を活用して大量生産方式で拾えない需要を狙うのがニッチ型です。

欧州で地域の出版を支えているのはキリスト教のコミュニティです。非行防止や恵まれない人たちの救済も地域のコミュニティの役割です。そうした地域にはマイクロパブリッシングの需要があります。日本は明治維新の廃仏毀釈でそうしたコミュニティが希薄になってしまいましたが。

■原田 教会が地域コミュニティの中心なのですね。日本もかつては檀家制度や菩提寺が地域コミュニティの中心でしたが、欧州ではそのまま残っていると。

■杉田 本に近いのはキリスト教の文化でしょうか。ヨーロッパは昔からの地域コミュニティが見られます。地域コミュニティを活性化していく時には母体になる文化や社会特性が非常に大事だと思います。個人

主義が強い米国はどちらかというとデータドリブンで、データありきです。SP 会社が地域の印刷会社と組んで DM を印刷するような感じですね。

次の一手を考える上で、オフセット印刷機なのか、POD 機なのか、その問いの立て方は違うと思います。機械があればジョブが来る時代ではありません。地域でニッチの部分を攻めるのであれば、クリエイティブが重要になります。そこは POD 機だけでは補えない部分です。正直、POD 機の品質に関してはどのメーカーも差がほとんどありません。クリエイティブで差を付けつつ、人ができるだけ介在せずにマイクロパブリッシングのような小ロット印刷物を作るのがポイントになってきます。ただ、デザイナーは Web やゲームへと流れており、グラフィック業界で不足しつつあります。将来的には AI (人工知能) がクリエイティブを作っていく方向も考えられます。

今まではクライアントにデジタル印刷とオフセット印刷で刷ったものを見せて、「こんなに違いがありません」という話でした。今は Web で情報伝達が事足

りる時代です。印刷方式よりも、紙媒体に乗せた情報がどう伝わっていくのか説明が求められます。そこを研ぎ澄ます必要もあるでしょう。そうしないとクライアントから頼られなくなる恐れがあります。

■原田 先ほどの、人が介在せずというお話ですが、難しくはないですか。

■杉田 設備集約型とニッチ型という方向はすでに見えています。どちらもタッチレスを指向するスマートファクトリーを目指していくのだと思います。スマートファクトリー化の端緒は見える化です。

例えば小規模企業では、機械稼働状況や業務の進捗などを示すダッシュボードはいらぬよ、という風潮ですが、一つのジョブを全国 10 か所で 10 社が同時に印刷しようということが起き始めています。そうするとそれぞれの工場間での情報の共有が必要になります。今では kintone のような安価で使えるクラウドの汎用プラットフォームがあります。大がかりな基幹業務システムがなくても、簡単に見える化ができる環境になっています。



印刷業にとって、標準化やクラウドが、生き残りのキーワードになりそうですね。

原田大輔

■原田 とくに POD はデジタルとの親和性が高いですね。そこがアナログと違うところでしょうか。

■杉田 クライアントから明日、皆に印刷物を配布したいので、ここで欲しいというニーズがあったとします。そうした瞬発力が必要なときに、ワークフローの設計や生産管理が大事になってきます。工程間、機器間をデータで連携させて自動で動くようにし、安価なクラウドベースで管理する。そうしないとニッチの市場では儲かりにくくなります。小ロットのジョブをたくさん集めても赤字だったという話は良く聞きます。それでもオフセット印刷の仕事につながるからと受注してきたかもしれませんが、これからは POD でも儲けなければなりません。いかに標準的なワークフローを構築していくかです。

弊社のデジタルワークフロー『FreeFlow』は作業の流れを一元管理するとともに、システム、アプリケーション、プリンタ間を有機的に連携させ、効率的な作業の流れを実現します。今後は、人手不足で4人で作業していた工程を2人で処理する必要も出てくるかと思っています。ワークフローの改革は働き方改革にもつながります。

### 作業の標準化と働き方改革 自動化で労働不足補う

■原田 オリジナルで仕組みをつくと、高いお金を使った分、変えることが難しくなります。すると仕事の内容が変わっても、働く人の意識が変わりにくいですね。標準化やクラウドはキーワードになってきそうです。

■杉田 今後は、弊社でも保守サービスの人員が減っていくと思います。多くのエンジニアの力量を高め、

標準化していく必要が出てきます。ナレッジのあるベテランのエンジニアと不慣れなエンジニアとでは機械を直す時間が違います。それは収益性に跳ね返ってきます。印刷会社でも同じです。A、B、Cのオペレータの生産性が全く違うというのは良く聞く話です。熟練工のナレッジを見える化し、パターンが分かればどこに作業の問題点があるのかが分かってきます。

■原田 当社でも作業が遅いDTPオペレータに、ベテランの作業を後ろから見せたりしています。

■杉田 もう一つはRPA（ロボティクス・プロセス・アウトソーシング）への置き換えです。自動化できるところは自動化していくということです。

### シナリオの実践が強み生む スピード感あるサービス提供

■原田 儲かっているユーザーとそうではないユーザーの違いはどこにあるのでしょうか。

■杉田 オフセット印刷のように、単価がいくらで何部刷るといふ汎用的なビジネスモデルではあまり儲かりません。この顧客、市場はこうしてこう攻略するんだという明確なシナリオを持っている企業は儲かっていると感じています。

Webで小ロットのパッケージを受注している企業では、1個、2個だけのB to C需要を徹底的に避けています。いくら自動化しても儲からないからです。企業のイベントやセールスプロモーションで使う500個、1000個のB to Bに絞っています。自動化した生産体制からジョブの取り方でシナリオを作っています。そうした、戦略に沿って従業員が動くところは強いですね。

オランダの印刷会社は顧客に冊子の編集ソフトを無料で提供しています。印刷する時にだけ課金する方式



です。編集ソフトの教育もしています。生産現場では2台のiGenをシステム化して1人でオペレーションしています。かつては24時間シフトでしたが、これにより定時の作業になりました。

でも儲けようとするのなら、別にPODに限った話ではありません。地域の情報発信のプロモーターに徹して儲けている印刷会社もいらっしゃいます。

スピードも重要だと思います。『プロトタイプ』という言葉があります。お客様にプロトタイプの製品を使って頂きながら、不具合を修正して最終的に商品化するという考え方です。印刷会社もクライアントにサービスする上で、プロトタイプのコピーを取り入れたらいいかと思っています。クライアントに提供したサービスを利用して頂きながら修正して完成させていく形態です。

新しい事業を開発する時、お客様の声を100件集めたとします。今までは「本当にそれがニーズか？もう100件集めろ」、となります。でもハンコを押さない。事業がスタートするのは競合が先に始めてから。それでは遅いのです。ある程度、市場が見えたらスタートする。それぐらいのスピードが必要になってきます。

■原田 これから印刷会社が減っていくということでしたが。

■杉田 日本は欧米と違って7割残ると思います。欧米のようにドライではなく、粘り強いからです。でも、なくなった企業のジョブを取っていきただけではない戦い方が求められるでしょう。複数社がネットワークを組み、規模の大きいジョブを獲得する仕組みとか、それぞれとんがった企業が規模ではない戦い方をしていくということです。

■原田 最後にPODの将来像、可能性は。



時間が経つのも忘れて印刷の未来について熱く語り合う杉田・原田両氏



印刷業は設備集約型とニッチ型に向かっている。いずれもタッチレスを指向するスマートファクトリーを目指しています。

杉田晴紀

■杉田 インクジェットを利用した書籍の生産が指向され始めました。ゼロックスもこの市場に入っているのが一つの課題であり、今後、可能性が広がる部分です。

もう一つがAIやロボティクスとの連携です。デザイナーがこんな風合いでこんな形でと指示するとAIがデザインをしてくれる。顧客の指向とタグ付けしてレイアウトしてくれる。そうなってくると、色々ところでマイクロパブリッシングが可能になってきます。ゼロックスとしては皆さんとそうした市場を作りたいと考えています。

■原田 クライアントが自社に設置したPOD機で、そのデザインを出力したら、チャリンと課金されるような……。

■杉田 可能性はありますね。ジャグラさんの会員ネットワークも魅力的です。皆さんと一緒に、多様性が求められる市場について考えられればと思います。

■原田 今回、杉田さんから伺ったお話は、ジャグラの全会員と機関誌を通じて共有したいと思います。今回は良いお話を聞くことができました。ありがとうございます。



# シリーズ 需要創出を考える⑪

印刷需要が低迷し、価格競争が激化する経営環境の中で、ジャグラー会員企業はどのようにして活路を見出そうとしているのかを探る本シリーズ。第11回目は今年のジャグラー作品展受賞企業の中から、兵庫県支部・デジタルグラフィック株さんの事例をご紹介します。

## 事例12 作品展 / 厚生労働省人材開発統括官賞受賞

### 『兵庫津遺跡 第62次発掘調査報告書』

～プリプレスから印刷現場まで総力を挙げて～

デジタルグラフィック株(兵庫県支部)

#### 図版も多い550ページの報告書を40日で納品

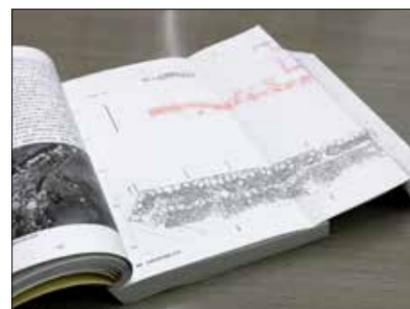
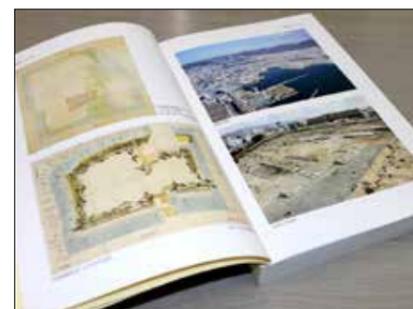
今回、「厚生労働省人材開発統括官賞」をいただいた『兵庫津遺跡 第62次発掘調査報告書』は、神戸市教育委員会様より受注し制作した作品です。弊社ではこれまで神戸市教育委員会様から同様の遺跡発掘調査報告書を多数受注してきましたが、今回の作品は巻頭カラーページから、報告書本文さらに巻末の遺物実測図および発掘遺跡の写真図版のページまで550ページを超える、これまでにない大部の報告書でした。加えて制作日数は40日間と、限られた作業時間内でプリプレス・印刷現場が協力して作業に当たりました。

報告書は、神戸市教育委員会文化財課が大型商業施設の建設に伴って埋蔵文化財を調査するため、平成26年2月から27年3月までと28年2月から3月まで実施した兵

庫津遺跡の発掘調査報告です。なお兵庫津遺跡は、神戸市のほぼ中央に位置する兵庫区の市街地にある遺跡です。兵庫津は古代から港町として栄え、平安時代後期には平清盛による港の整備も行われて、織田信長の時代には兵庫城が築かれていました。第62次発掘調査では、遺跡から多くの様々な遺物や遺構が発掘され、兵庫城の城郭と周囲の城下町も見つかっています。

報告書には、教育委員会様が撮影、書き起こして作成された(それも大変な作業だったと思われます)、それら遺物や遺構の実測図などの図版を掲載していますが、掲載に当たって提供いただいた実測図などの図版をスキャンして取り込み、図版に残っていた汚れ等を一つ一つ丹念に消していったり、細くかすれている線は修正して見やすくするなどの細かい作業を施し、より鮮明な図となるよう努めました。遺跡には複数の時代の遺構が埋まっており、実測

受賞作品  
『兵庫津遺跡 第62次発掘調査報告書』



図の重ね合わせも難しい作業となりました。また指示に従って遺構図中に施す網掛けは、位置の正確さも要求される作業でした。さらにそれぞれの遺構図に合わせたスケールを追加する作業もあります。

また図版内に書き込む各部分の名称や記号・数字等についても、遺物・遺構の番号との整合性を確認することはもとより、見やすさを考慮してフォントや文字の大きさを選んでいきました。また各部分を示す矢印や線の位置の確認も慎重に行いました。この度の報告書制作に当たって担当者を悩ませたのは、巻末の遺物実測図だけでなく、折図も含めて本文中にも多数挿入されている図版点数の多さです。その一つ一つに上記のような手順を掛けたことにより、見やすくきれいな図版にできたと言えます。

報告書という本書の性質からも、本文の文字組に当たっては、読みやすく、読み手の理解を助けるようなフォント・文字級数を選び、誤字脱字にはより一層注意をして正確を期することに努めました。本文中に多く挿入される図版や写真と、文章との位置関係や、図の番号と文中の番号との整合性にも注意を払い、読みやすく見やすい誌面構成を考慮しながら組版作業を進めていきました。

142ページにわたるカラーの遺跡写真および遺物実測図

に添えられた遺物写真、本文中に使用された遺跡等の写真については、300線の高精細では印刷段階でシャド一部分が潰れやすくなるという問題点もありましたが、PS版の癖や特性を考慮して色分解を行い、シャド一部もシャープに印刷することができました。結果として300線の高精細印刷により写真を美しく鮮明に再現することができて、関係者の皆様からも喜ばれ高い評価をいただくことができました。

今回受賞しました『兵庫津遺跡 第62次発掘調査報告書』は、550ページを超えるページ数、40日間という短い製作日数、多数の写真に加えて修正・加工する図版の多さ等々、いろいろな難問がありましたが、プリプレスの担当者から印刷の担当者まで互いに意見を交換しながら総力を挙げて取り組むことができ、正確かつ美しい仕上がりとなり、納入先の神戸市教育委員会様にご満足いただけたことが何よりでした。

以上、『兵庫津遺跡 第62次発掘調査報告書』を制作するに当たって注意した点、苦労した点などを紹介しました。今後も、弊社に発注いただいた仕事に対して真剣に向き合い、お客様にご満足いただける製品をお届けできるよう努めていきたいと考えています。

## Column

### 最新技術活用で業務改革、伊勢神宮前の大衆食堂が大変身

e-中小企業ネットマガジンVol.841より転載

**伊**勢神宮内宮近くに立地する「あびや」(三重県伊勢市)は1912年創業の大衆食堂だ。手切りの食券と算盤で商いをしてきたが、近年めざましい進化を遂げている。店舗を改装し、メニューを一新。機械学習で得たデータや画像解析技術を駆使して業務改革を実施し、従業員一人あたりの年間売上高を396万円から1073万円に引き上げた。改革の旗手は昨年10月に昇格した小田島春樹社長(33歳)だ。

**東**京の大学で知り合った妻の実家に入ると言ったら、周囲に大反対された。「地方?飲食店?絶対無理だよ。皆がそこまで言うってことはチャンスだし、事業はゼロから立ち上げるより、ある程度基盤がある方が有利」とあびやの店長になる。2012年3月のことだ。

**そ**れから6年余り。小田島社長は毎朝、従業員に「今日は×人お客さんが来る。味噌汁は×杯」などと伝えて準備を指示する。前日に来店人数や注文メニューの予測ができていたからだ。天気予報や曜日、近隣の宿泊者数などのオープンデータに、グルメサイトのアクセス数や来店客の性別、年代を従業員が目視確認して入力した自社データを組み合わせると来店予測の的中率は約96%。年間平均も90%以上の高確率だ。

**予**測に基づいて準備するので食材ロスが少ない。以前は日に6升炊いて余らせていたコメは2升で済む。来店

客数に応じて厨房やフロアの人員を最適化し、午前中に「牛丼」の注文が多い予測日なら食堂前の立看板を「牛丼」に変える。卓上のオーダー端末から客に注文してもらえば従業員の負担が減る。注文内容を予測しているので調理時間も短く、客の待ち時間は10分から15分だ。「観光客にとって一番大事なのは時間」だから、料理が早く出れば客の満足度も、回転率も上がる。

**食**堂に隣接する土産物店は、入口に設置した画像解析システムで来店客の年代や性別が分かる。30~40代の女性客が多いので彼女らに合わせた商品を並べたら、今年1月の売上は前年比2倍に伸びた。POSは8対2で女性の購買が多いことを示すが、来店客は6対4で男性も少なくない。店頭で男性向け商品を揃えたら、購買率が7対3に変化して全体の売り上げも約2割上がった。

**現**場に落ちていた課題を解決するため最新技術で工夫を積み重ねてきた。自社の成功モデルを外部に提供する情報系販売も行う。飲食店用プラットフォームの提供や、画像解析などで取ったデータを読み解いて使える形に落とし込む支援だ。

「情報化に取り残された地方の中小零細の飲食・小売業に、これだけできると言いたいです」と、小田島社長は語る。



## 彩速兼備

卓越した画質とハイスピードで  
ロールメディアへのプリントを革新

# AcuityLED1600R

ハイパフォーマンス LED UVインクジェットロールプリンター

- 圧倒的な高画質と生産性
- 8色から4色まで選べるインクカラー
- ボトルによるインク補充が可能  
\*オプション(近日発売)
- 40kgまでのロール重量に対応
- 専用インクがGREENGUARD Gold認証を取得



PRODUCT CERTIFIED  
FOR LOW CHEMICAL  
EMISSIONS  
UL GREENGUARD  
UL 2818



独自のインクジェット技術「FUJIFILM Inkjet Technology」  
「ヘッド」「インク」「画像処理」と、それらを連携・統合したシステムに  
おいて、世界トップクラスの技術・商品を保有しています。

富士フイルム グローバル グラフィックシステムズ株式会社 ワイドフォーマット営業部  
〒106-0031 東京都港区西麻布二丁目26番30号 富士フイルム西麻布ビル TEL.03(6419)0850 [ホームページ](http://ffgs.fujifilm.co.jp) <http://ffgs.fujifilm.co.jp>

# TOKYO QUALITY.

すべてのSPコミュニケーションに最良の品質を。



## 東京リスマチック株式会社

なんでも相談窓口

プリントデスク ☎ 0120-269-132

平日(月~金) 9:00~17:00 E-mail: support@lithmatic.co.jp



**Lithmatic**  
<http://www.lithmatic.net>

# 個人情報漏洩事故の傾向と注意点

## 平成 29 年度 JIPDEC 報告書から

一般財団法人日本情報経済社会推進協会（JIPDEC）では、毎年 JIPDEC 及び審査機関（18 機関）（以下 JIPDEC 等）に報告があったプライバシーマーク付与事業者（以下、付与事業者）の個人情報の取扱いにおける事故についての報告を行っている。平成 29 年度は、911 付与事業者より 2399 件の事故報告があり、前年度の 843 付与事業者 2044 件より、事業者数、事故報告件数共に増加した。平成 29 年度末時点の付与事業者数に占める事故報告事業者の割合は 5.8%であり、これについても前年度と比較し増加した（前年度 5.5%）。因みにジャグラーにおける事故報告は 1 件あった。

### 概要

- ①事故の原因は、「メール誤送信」（26.5%）が最も多く、次いで「紛失」「その他漏えい等」の順に事故報告件数全体に占める割合が多かった。前年度と比較し、「メール誤送信」が大幅に増加した（平成 28 年度 20.7%→平成 29 年度 26.5%）。「その他漏えい等」も前年度に比べ割合が増加（同、13.8%→14.9%）し、特に「事務処理・作業ミス等」による漏えいの報告件数が 2 倍強に増加した。また、「口頭での漏えい」も増加した。
- ②事故の原因の「その他」のうち、「内部不正行為」が 2 倍強に増加した。
- ③件数としては決して多くはないが、インターネットを介した漏えい事故（例：公開対象ではない個人情報が外部から閲覧できるようになった事故）の事故報告が見られた。

（参考 1）

×

## 1. 全般的な状況

### 1) 事故報告の状況

平成 29 年度の付与事業者から JIPDEC 等に対する事故報告の状況は、報告事業者数が 911 事業者、事故報告件数が 2399 件となり、いずれも前年度より増加した。

### 2) 原因別に見た事故報告状況

JIPDEC 等に報告された事故報告について、発生原因別割合をみると、「メール誤送信」が 26.5%と最も高く、次に「紛失」（19.1%）、「その他漏えい等」（15.1%）の順となった。

前年度からの変動幅をみると、「メール誤送信」の増加幅が最も大きく（前年度差 + 5.8 ポイント）、次に「その他漏えい等」（同 + 1.2 ポイント）であった。一方、「宛名間違い等」の割合は減少（同▲ 2.3 ポイント）したが、原因別報告の 12.5%を占めている。

傾向としては、「メール誤送信」が増加傾向をたどる一方、「紛失」、「宛名間違い等」が減少傾向にある。

## 2. 平成 29 年度における事故の傾向と主な注意事項

### 1) メール誤送信による事故の増加

#### ①メール誤送信事故のパターン

「メール誤送信」の事故報告件数が事故報告件数全体に占める割合は、平成 25 年度以降増加傾向にある。平成 29 年度に報告されたメール誤送信事故を、3つのパターンに類型化した（資料 1）。これらの「メール誤送信」は思いのほか影響が大きい場合がある。例えば「ファイルの添付ミス」の場合、たった 1 通のメールであっても大量の個人情報が添付ファイルを通じて漏えいするリスクがある。

### ■資料 1 平成 29 年度に報告されたメール誤送信事故の主な事例（主な事故事例と発生原因）

#### 1 メール宛名間違い

- ・アドレス帳から同姓の別人のメールアドレスを選択した。
- ・メーラーのオートコンプリート機能により別人のアドレスが表示されているにもかかわらず、そのまま送信先メールアドレスとして設定した。
- ・送信先メールアドレスをコピー&ペーストして利用する際、平行して作業していた別人のメールアドレスを誤ってコピー&ペーストした。
- ・宛先のメールアドレスを登録する際、誤って別人のメールアドレスを登録した。
- ・メール送信先の対象として、誤って退会者のメールアドレスを抽出した。

#### 2 ファイルの添付ミス

- ・A 社にメール添付でデータ送信する際、誤って B 社のファイルを添付してメール送信した。
- ・C 社に Excel ファイルをメール添付で送信したところ、D 社の個人情報が記載されたシートが添付ファイルに含まれていた。

#### 3 BCC と TO/CC の誤り

- ・応募者全員に案内メールを送信する際に、BCC 送信すべき

参考 1 原因別事故報告件数

原因	漏えい							盗難・紛失			その他	計	
	誤送信					ウイルス感染	その他漏えい	盗難		紛失			
	宛名間違い	配達ミス	封入ミス	FAX	メール			車上荒らし	置き引き等				
平成25年度	報告件数	270	2	243	126	274	2	194	4	28	404	80	1,627
	割合 (%)	16.6%	0.1%	14.9%	7.7%	16.8%	0.1%	11.9%	0.2%	1.7%	24.8%	4.9%	100.0%
平成26年度	報告件数	282	1	275	126	305	1	114	8	40	416	80	1,648
	割合 (%)	17.1%	0.1%	16.7%	7.6%	18.5%	0.1%	6.9%	0.5%	2.4%	25.2%	4.9%	100.0%
平成27年度	報告件数	311	5	334	157	409	6	135	13	29	435	121	1,955
	割合 (%)	15.9%	0.3%	17.1%	8.0%	20.9%	0.3%	6.9%	0.7%	1.5%	22.3%	6.2%	100.0%
平成28年度	報告件数	303	0	274	136	424	4	281	9	37	409	167	2,044
	割合 (%)	14.8%	0.0%	13.4%	6.7%	20.7%	0.2%	13.7%	0.4%	1.8%	20.0%	8.2%	100.0%
平成29年度	報告件数	300	0	329	125	636	6	357	10	25	458	153	2,399
	割合 (%)	12.5%	0.0%	13.7%	5.2%	26.5%	0.3%	14.9%	0.4%	1.0%	19.1%	6.4%	100.0%

- 1 配送委託先が起因となり不可抗力と判断した事故は含まない
- 2 事故報告については複数の原因を設定する場合があったため、平成 26 年度と平成 27 年度においては、事故報告件数と原因別事故報告件数の合計は一致しない
- 3 「誤送信」のうち「宛名間違い」は、誤送信の原因となる配送に関する事務処理上のミス（宛名書き間違い、誤登録、誤入力等）及び渡し間違いである。「配達ミス」は、配送を業とする付与事業者自らが配達した際の間違いである
- 4 「その他漏えい」の内訳については、下記参考 2 参照
- 5 「その他」の内訳については、下記参考 3 参照

参考 2 原因別事故報告件数における「その他漏えい」の内訳

原因	プログラム／システム設計・作業ミス	システム のバグ	不正アクセス 不正ログイン	口頭での 漏えい	事務処理 ・作業ミス	関係者のミス による漏えい	合計
平成25年度	報告件数	74	3	36	33	48	194
平成26年度	報告件数	44	4	27	17	22	114
平成27年度	報告件数	40	1	24	21	49	135
平成28年度	報告件数	89	8	57	27	64	281
平成29年度	報告件数	80	3	48	35	150	357

平成 27 年度までは関係者（顧客等も含む）のミスによる漏えいは、参考 1 = 原因別事故報告件数で「漏えい」と分類した各事故の中に含めて集計したが、平成 28 年度以降は全て「その他漏えい」に含めて集計した

参考 3 原因別事故報告件数における「その他」の内訳

原因	不正取得	目的外利用	同意のない 提供	内部不正行 為	誤廃棄	消失 ・破壊	左記に分類 できない 内容	評価 対象外	合計
平成25年度	報告件数	1	20	5	7	23	4	20	80
平成26年度	報告件数	3	11	9	12	28	5	12	80
平成27年度	報告件数	1	22	7	9	28	7	47	121
平成28年度	報告件数	3	23	6	7	27	6	66	167
平成29年度	報告件数	2	18	8	15	30	9	13	153

平成 27 年度までは、「評価対象外」とされているものは、参考 1 = 原因別事故報告件数で、「漏えい」や「盗難・紛失」と分類した各事故の中に含めて集計したが、平成 28 年度以降は全て「その他」に含めて集計した

ところを、TO や CC にて送信した。

### ②メール誤送信事故の防止策例

メール誤送信事故の防止策の例としては、一般的には以下の対策が効果的と考えられる（資料 2）。なお、メール誤送信事故の防止策をはじめとした安全管理措置は、各事業者が個人情報の取扱いにおいて直面するリスクに応じて、合理的と思われる措置を講じることが原則であり、資料 2 に掲げた対策を講じたからといって、全ての事業者においてメールの誤送信事故を防止できるというわけではないことに注意しなければならない。

### ■資料 2 メール誤送信事故や二次被害の防止策の例

a メール送信前確認の徹底*	・メール送信前確認のルール化・マニュアル化 ・メール送信前確認のルールの教育、など
b メールの設定変更	・メール送信前にメール内容が確認できる設定など
c 添付ファイルの暗号化	・暗号化又はパスワードロック等の秘匿化など

↳ ツールの導入に満足するのではなく、確実かつ有効な活用を心掛ける

※ a メール送信前確認の徹底

メール送信する前に、以下の事項を、各人がきちんと確認することが肝要である。

- ・送信先のメールアドレスは正しいか
- ・BCC と TO/CC の設定は正しいか
- ・メール本文中に関係のない個人情報が含まれていないか
- ・添付ファイルとして正しいファイルが選択されているか 等

平成 29 年度の事故報告では、メール誤送信事故の主な原因として「メール送信前の確認作業を怠った」と報告する事業者が多かった。これらの確認作業を徹底させるために、安全管理規程や業務マニュアル等の中でメール送信前の確認作業を明示的に謳ったり、それらのルールやマニュアルについて研修や朝礼等の場で従業員向けに教育を行ったりすることが考えられる。

※ b メーラーの設定変更

メーラーの設定を変更し、メールの送信ボタンを押したとき、メールが送信トレイに一定時間滞留し、すぐには送信されない仕組みにする等、ある程度強制的にメール送信前の確認作業を行わせることにより、メール内容や宛名設定の確認を促し、誤送信を防ぐことにつながると考えられる。

※ c 添付ファイルの暗号化

どんなに注意してメール送信作業を行っても、メール誤送信をゼロにすることは容易ではない。このため、仮にメール誤送信が発生した場合も、添付ファイルに記載された個人情報が送信先に漏れないように、暗号化やパスワードロック等の秘匿化措置を講じることは必要であろう。

なお、これらのメーラーの設定変更や添付ファイルの暗号化の措置を導入しても、例えば、送信メールを送信トレイに滞留させても、その間の確認作業が適切に行われなければ、メール誤送信リスクが残る。また、添付ファイルにパスワードロックをかけても、誤送信先にパスワードも送ってしまえば、添付ファイル内の個人情報が相手に漏れてしまう。このため、これらの対策を実施した場合にも、『ツールの導入で終わりにするのではなく、導入したツールをしっかりと活用すること』に常に努めなければならない。

2) 今後の増加が予想される「インターネットを介した事故」

件数としては多くはないものの、インターネットを介して個人情報が漏えいする事故の報告がみられた(資料3)。近年ではオンラインストレージを利用して個人情報を取り扱う事業者が増えていることから、今後同様の事故が多く発生するリスクが懸念される。このため、これらの事故が実際に起こった場合に備え、適切な対応を行うことが必要である。

■資料3 平成 29 年度に報告されたインターネットを介した事故の主な事例 (主な事故事例と発生原因)

1 作業ミス

- ・A社のデータを、誤ってB社のオンラインストレージにアップロードした。
- ・ホームページのリニューアル作業時、公開用フォルダに移動した個人情報が含まれるデータを、作業終了後削除し忘れ、このデータが外部からアクセスできる状態となった。

2 ID/パスワードの漏えい

- ・会員Cに対し、会員D用の会員ページのIDとパスワードをメールで送信したため、会員Cが会員D用の会員ページにログインした。
- ・取引先E社に対し取引先F社用の取引先ページのIDとパスワードをメールで送信したため、取引先F社の顧客情報が取引先E社に漏えいした。

3 設定ミス

- ・クラウド上での作業時、取引先の従業員の個人情報の非公開設定を失念し、これらの情報がインターネットサービス上で閲覧可能となった。
- ・ホームページのIPのアクセス制限設定を誤り、要配慮個人情報が掲載された非公開ページが検索・閲覧できる状態となった。

①インターネットを介した事故

従来の個人情報の漏えい事故(不正アクセス等外部からの不正行為を除く)では、メール・FAXの誤送信先や、住所間違いによる誤送付先といった特定の事業者や個人が漏えい先であることが多かった。このため、漏えい先の範囲が特定でき、被害の実態を把握することは容易であり、二次被害防止のための対応も比較的とりやすかった。

しかし、インターネット上で誰もが閲覧可能な状態になっている場合は漏えい先の特定が難しいことから、被害の実態把握が困難で、二次被害防止の対策をとりにくいと考えられる。未然防止の観点から、事前に事故防止策を講ずることが重要である。

■資料4 インターネットを介した事故の問題点

従来の事故	漏えい先が限定的 →被害の実態把握が容易 →二次被害防止の対応がとりやすい
当該事故	漏えい先が不特定多数の可能性 →被害の実態把握が困難 →二次被害防止の対応がとりにくい



本人への被害の長期化・拡大のおそれ

②インターネットを介した事故の防止策例

事故の発生原因には、公開設定やアクセス権限の設定ミス、アップロードミス等、ヒューマンエラーと呼ばれるものが多い。

専門的なスキルを持つシステム担当者や委託先にまかせきりになってしまうことも多いため、注意が必要である。

また、万が一事故が発生した場合に備えての二次被害防止策の策定も重要なポイントである。

なお、これらの防止策等の安全管理措置は、本来事業者が個人情報の取扱いにおいて直面するリスクに応じて、合理的と判断する対策を講じることが原則である。以下で挙げる対策を実施したからといって、全ての事故を防ぐことができるとは限らないが、全く対策を実施していない場合と比較すれば格段に安全性が高まることが期待できる。

◎手順やルールの見直し

- ・適切な業務運営ガバナンス体制の構築
- ・作業実施ルール確認・見直し
- ・チェックルール確認・見直し 等

◎具体的な手順等の工夫

- ・二重チェック体制の構築
- ・従来のやり方にこだわらない新たな手順の導入 等

◎注意喚起・教育

- ・教育方法・実施時期・教育内容等の見直し
- ・事故防止ルールの見直しと見直したルールの周知徹底
- ・人為的ミス防止のための定期的な教育の実施 等

◎委託先の管理

- ・定期的なモニタリングの実施等チェック体制の確立、及び監査実施(委託先の教育内容の確認等)の徹底

3) 内部不正行為による事故

①内部不正行為による事故の状況及び事例

内部不正行為による事故の報告件数は平成 29 年度において 15 件となり、前年度(7 件)の 2 倍強に達した(参考 3)。

平成 29 年度に報告された内部不正行為による主な事例は、資料 5 の通りで、不正行為者としては、従業員、退職者、委託先などが挙げられる。

一般的に雇用契約終了時においては、不正行為発生のリスクが高いといわれている。特に退職者の在職時、個人情報の取扱い権限が当該者に集中していた場合は注意が必要である。また、個人情報が放置され、退職者が簡単にアクセスできるような状態になっていないか、普段から注意すべきである。

■資料5 平成 29 年度に報告された内部不正行為による事故の主な事例 (事故事例と発生原因)

1 従業員

- ・人事情報を他部署の従業員が無断で持ち出し、外部に FAX 送信した。
- ・営業担当者が顧客になりすまし、代金の払い戻しを受け取った。

2 退職者

- ・元社員が顧客データを持ち出し、転職先での営業活動に利用した。
- ・元社員が顧客名簿を持ち出し、他の事業者に販売した。

3 委託先

- ・委託先の従業員が自宅で作業するため、個人データを持ち出した。
- ・委託先の従業員が委託元の社員情報を持ち出し、社員に迷惑メールを送信した。

②内部不正行為による事故の防止策例

内部不正行為による事故のうち、退職者によるデータの不正な持ち出しの防止策の例としては、以下が挙げられる。なお、これらの防止策等の安全管理措置は、本来事業者が個人情報の取扱いにおいて直面するリスクに応じて、合理的と判断する対策を講じることが求められる。

- ・データの管理状況の見直し
- ・個人情報を抽出できる端末の制限
- ・外部から社内システムへの接続制限
- ・退職者との秘密保持契約の締結
- ・退職者の ID の迅速な削除 等

4) その他日常業務の中で注意すべき事故

①口頭での漏えいによる事故

- ・口頭での漏えいによる事故の状況及び事例  
口頭での漏えいによる事故の報告件数は、平成 26 年度以降 3 年連続で増加した(参考 2)。  
平成 29 年度に報告された、「口頭での漏えい」による事故の事例を挙げると、以下の通りである。  
→マンション管理人が居住者に迫られて、他の居住者の情報を教えた。  
→電話での本人確認が不十分だったため、本人と誤認して別人(家族)に個人情報を教えた。  
→誤って別人のログイン ID 等の情報を伝えた。  
→なりすましで電話をかけてきた相手に、従業員の氏名、連絡先等の情報を伝えた。  
等

②口頭での漏えいによる事故の防止策例

対面や電話の場合、即時の対応を迫られる等があるため、その場のやり取りの状況によっては、対応ルールを定めてもその通りに対応することが難しいケースはある。しかしながら、口頭での漏えいによる事故を防止するためには、対応ルール・手順の確認・見直しと、従業員への注意喚起・教育が必要である。

③盗難・紛失による事故

平成 29 年度に報告された「盗難」及び「紛失」の事故報告件数は、事故報告件数全体の 20.5% を占め、依然として多い。媒体別報告件数の割合をみると、携帯電話・スマホの割合が増加する一方、ノート PC・モバイル機器の割合は減少した(参考 1)。  
盗難・紛失による事故を減少させるためには、盗難・紛失事故の発生しやすいつい状況を回避し、各媒体の取扱いに細心の注意を払うことを意識した従業員教育の実施等が必要である。

以上

**Horizon**  
Change the focus

「理屈」で考えるワークフロー、  
ポストプレスにフォーカスしてみませんか



四六判半裁全自動紙折機+横型プレススタッカー  
**AFC-566FKT+PST-44**

大型カラータッチパネルを搭載し、用紙を1枚挟むだけで、全ての設定を数十秒で行います。便利なワイヤレスリモコンを標準装備し、操作パネルから離れている場所でも操作できます。



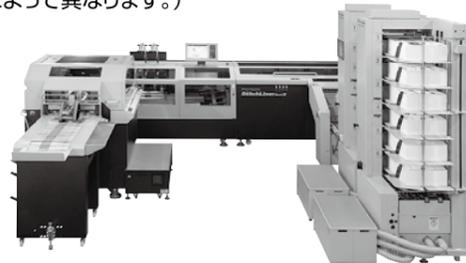
自動無線綴機4クランプタイプ  
**BQ-480**

セット替えの高速化による、小ロット、バリエーション製本での高生産性を実現。1冊ずつ厚みの異なるバリエーション製本を最高で時間800冊で処理することが可能です。



ペラ丁合鞍掛け中綴じ製本システム  
**StitchLiner MarkⅢ**

厚みの異なる冊子に応じて各部を自動で調整、作業を中断することなく安定した高品質な製本を実現。A4S綴じ冊子は最高6,000冊/時間、A4E綴じ冊子は最高5,300冊/時間で処理することが可能です。(製本速度は紙質や紙の厚さによって異なります。)



全油圧断裁機  
**APC-610**

幅61cm、厚さ10cmまで一度に断裁でき、プレッシャとともに、カッティングも油圧式で強力です。



www.horizon.co.jp

株式会社 **ホリゾン東テック**

【本 社】 〒132-8562 東京都江戸川区松江5-10-9  
TEL.03(3652)7631(代) FAX.03(3652)8083  
【東北営業所】 〒984-0002 仙台市若林区卸町東1-7-31  
TEL.022(782)2821(代) FAX.022(782)3068

【システムデザイン営業部】 〒101-0031 東京都千代田区東神田2-4-5 東神田堀商ビル5F  
TEL.03(3863)5361(代) FAX.03(3863)5360

株式会社 **ホリゾン西コンサル**

【本 社】 〒601-8206 京都市南区久世大蔵町510  
TEL.075(933)3060(代) FAX.075(933)4025  
【九州営業所】 〒813-0034 福岡市東区多の津4-12-17  
TEL.092(626)8111(代) FAX.092(626)8112

プリントメディアの総合商社

**SHOWA**

そろそろこのマシンもガタがきてるな... 何か新しいことを始めないと... 最近の技術についていけない...  
うちも本気でカラーマネージメントをやらないと...  
次の基幹システムはどうしよう... そろそろ買い替え時だな...  
よその会社はどうしてるんだろう...  
新システムを導入しても、使いこなせてないな... **やばい！また資材がきれてる...**  
**また発注ミスが...** お客様との連携がうまくないな... もう少し効率よくできないものか...  
最近トラブル続きだな... **またクレームだ...**  
何か新しい提案ができないかな... 負担をもう少し減らせられないものか...



そんな悩みを

**SHOWAが解決します！**

機資材 + 技術サービス + システムサービス + コンサルティング

SHOWAなら...

- ★アフターフォローも万全
- ★ユーザー会で密に情報交換
- ★創業90年の実績
- ★軽快なフットワークが自慢
- ★提案型営業でしっかりサポート

21世紀のグラフィックアーツを共に考えるSHOWAユーザー会

コラボレーション&リサーチ  
**「SHOWA会」**

へのお誘い

年間の活動

- 研修会 ●工場見学会 ●総会・幹事会
- 会報・メールマガジンの発行 ●有志グループ活動

①お問い合わせ、入会お申し込みは事務局まで

**SHOWA会 事務局** TEL:03-3263-6141  
FAX:03-3263-6149

一步先ゆく

株式会社  
**SHOWA**

〒101-0065 東京都千代田区西神田 2-7-8 TEL 03-3263-6141(代) FAX 03-3263-6149

http://www.showa-corp.jp

オペレーターのスキルアップのために

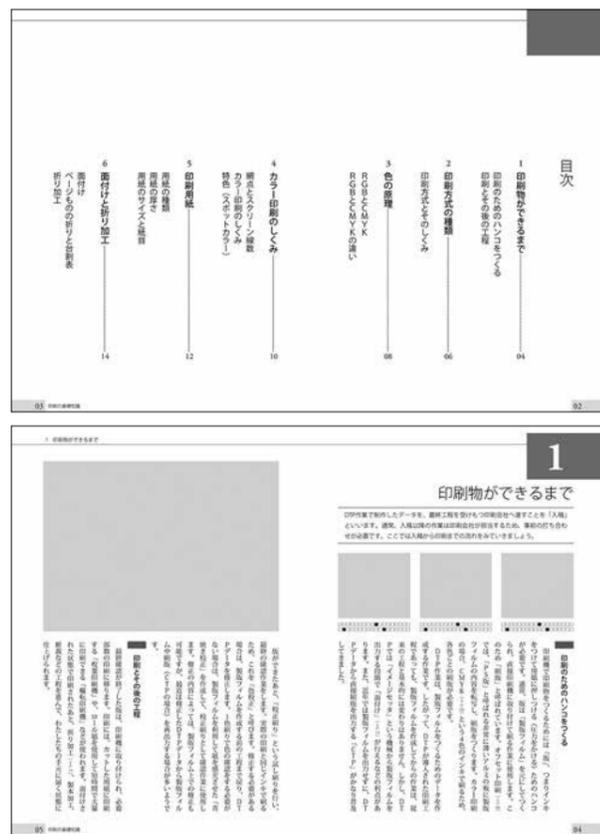
ジャグラコンテスト  
第1次審査課題解説③

## InDesign問題1：縦組み小冊子の制作

DTPオペレーターの間を競う「ジャグラコンテスト第4回 InDesign」の第1次審査課題について、課題内容と審査の要点を連載でお届けします。

## 課題内容

「問題1：縦組み小冊子の制作」では、InDesignの基本機能を利用した、縦組み（一部横組み）のシリーズ化を前提とした小冊子制作の課題が出題されました（図1）。



▲図1 「問題1：縦組み小冊子の制作」完成見本の一部

## 出題の意図

「問題1：縦組み小冊子の制作」は、新規ドキュメントを作成するところからInDesignの基本機能の使いこなしができていないかを確認する問題としました。日頃のDTPオペレーションの仕事では、すでにフォーマットがあるも

のからの制作や、既存データの修正などが多いという方もいらっしゃると思います。そういう方々にも新規ドキュメントを作成するところから作業し、InDesign操作の基礎を固めていただきたいという意図がありました。

印刷物は、印刷された結果（見た目）が正しい状態であれば、レイアウトソフトでどのような作り方をしているかが問題にはなりません。しかし、プロとしてInDesignを使う方々には、できる限りInDesignの機能を効率良く活用して、“速く”、“正しく”、“修正対応が簡単”なデータを作成できるようになっていただきたいため、そのための工夫をたくさん盛り込んでいただいた方には加点させていただきました。

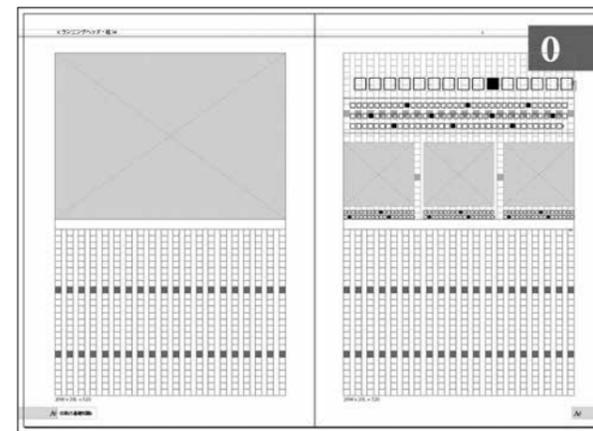
## 課題のポイントと必須技能

レイアウトグリッドを使用して指示通りにフォーマットが正しくマスターページに設定されていることが必須です。同じ体裁のシリーズを複数作成するという前提の課題なので、他のオペレーターが作業することになっても迷うことなく業務が進められるよう、すべての書式を段落スタイルに登録しておく、位置や大きさが決まっているフレームをマスターページに作成しておくなど、実際のレイアウトページだけではなく、マスターページアイテムや段落スタイルが適切に設定されているかが重要なポイントとなります（図2）。

InDesign 初級者の場合、「マスターページ」の作成（自動ページ番号挿入を含む）、「段落スタイル」の設定と活用を確実に身につけるところからはじめてください。

基本的な部分をマスターしている方は、さらに効率アップができるよう、罫線に段落境界線を利用したり、柱部分に「テキスト変数」、小見出しには「先頭文字スタイル」、参照ページ部分は「正規表現スタイル」といったように、「文字スタイル」と「段落スタイル」の組み合わせでできる機

能をマスターしていきましょう。さらにPDF出力時にリンクが有効になるよう「相互参照」（ハイパーリンクパネル）を設定するなど、InDesignに搭載されているさまざまな機能を、いかに使いこなしていくかが、上達のポイントとなります。



▲図2 上：マスターページアイテムの設定例  
下：段落スタイルの設定例

## この課題で一番の難所は？

「目次機能をあまり使ったことがない」とコンセプト文に記入した方が多くみられました。「目次の更新」を実行するとレイアウトが崩れてしまうものも多く、更新後もレイアウトが変わらない（レイアウトを調整する必要がない）場合には、加点させていただきました。目次の作成も「文字スタイル」と「段落スタイル」の設定がとても重要です。業務ではあまり関係ないとしても、「文字スタイル」と「段

落スタイル」の理解を深めるために、目次機能もぜひ使いこなせるようになりましょう（図3）。



▲図3 目次スタイルの設定例

## 出題者からのメッセージ

機能の使いこなしに重点を置き過ぎて、ドキュメントそのものが指示通りにできていないというのも問題です。そのため、各機能の使いこなしとは別に、レイアウトデザインの指定の読み取りなど、実際の現場の作業で必須となる内容も各ページのレイアウトが正しくできているか確認し、評価しました。

一般的には基礎的な部分をクリアしている方が多く、応募者のレベルの高さに感心しました。「これが正解」という作成方法は何通りも考えられます。1つの作成方法に執着せず、いろいろな作り方を試し、その業務に最善の方法を見つけられるようになると良いと思います。

## 図版付き解説と模範データは特設サイトで！

ジャグラコンテスト特設サイトでは、第1次審査課題の解説文全文を図版付きで公開中です。コンテスト未受験の方もご覧いただけますので、ぜひスキルアップにご活用ください。

また、受験者の方は、第1次審査課題資料に記載されたダウンロードID・パスワードを入力することにより、「ダウンロード」ページから課題の模範データをダウンロードいただけます。

## ▼ジャグラコンテスト第4回特設サイト

<http://www.jagra-contest.com/>

多言語ユニバーサル情報発信ツール

# MC Catalog+

エムシー カタログ プラス



## 多言語に対応した デジタルブックを簡単に作成 手軽に配信・快適に閲覧

あらゆる紙媒体をデジタル化し、スマートフォンやタブレット端末に手軽に配信。さまざまなシーンにおいて、時間・場所・言語にとらわれず、情報発信から閲覧環境まで、ワンストップで最適な環境を提供いたします。



快適なユーザ体験をもたらす  
多彩で豊富な機能を搭載

- テキストウィンドウ表示
- 自動音声合成機能
- SNS連携機能
- ログ解析機能
- 配信エリア指定
- 本文検索機能
- 高性能翻訳エンジン



モリサワは、日本障がい者スポーツ協会を応援しています

[www.morisawa.co.jp](http://www.morisawa.co.jp)

詳しくは [エムシーカタログ](#)

●記載されている会社名・商品はそれぞれ各社の登録商標または商標です。●本仕様は、予告なく変更する場合があります。

# RICOH

imagine. change.

## ようこそ、 可能性。

商用印刷や企業内印刷の最前線では、あらゆるシーンに可能性がひそんでいます。プロの現場の期待に応えるのは、さらなる高品質と用紙対応力を磨きあげた RICOH Pro C5200S シリーズ。この1台から、新たな付加価値を生み出すステージが始まります。



## RICOH Pro C5210s/C5200s

[www.ricoh.co.jp/pp/pod/](http://www.ricoh.co.jp/pp/pod/)

※写真はRICOH Pro C5210Sにオプションを装着したものです。

**プロ、体感。** RICOH Printing Innovation Center ショールームスペース RICOH Proをはじめ、プロダクションプリンティングビジネスの新たなソリューションをご提供いたします。またDTPセミナーも定期的に開催中。お問い合わせ：050-3534-2121 ※ご利用は予約制となっております。詳細につきましては、担当営業または販売会社までお問い合わせください。

この広告は、リコーが提供する新しいクラウドサービスであるRICOH Clickable Paper サービス\*に対応しています。\* iPhone/iPad/Android™ アプリケーション「RICOH CP Clicker」(無料)をダウンロードし、広告を撮影(クリック)すると、商品のスペシャルサイトなどインターネット上の関連情報をご覧いただけます。

株式会社リコー 〒143-8555 東京都大田区中馬込1-3-6  
リコージャパン株式会社 〒105-8503 東京都港区芝3-8-2

※iPhone、iPadはApple Inc.の商標です。※iPhoneの商標は、アイホン株式会社のライセンスにもつき使用されています。※AndroidはGoogle Inc.の商標です。

# 関東複写センター協同組合が ジャグラの仲間になりました！

既に本誌でも報告の通り、関東複写センター協同組合（斎藤隆正理事長：写真）がジャグラに入会しました。これまでジャグラに入会するためには支部を通す必要がありましたが、今回は当面の間、関東複写センター協同組合を「地方協議会と支部」と見なすことになりました。これについては、ジャグラ前会長の吉岡新理事、中村会長、沖専務理事が関東複写センター協同組合と協議していく中で合意した内容となります。



加えて、先般の役員改選においては、関東複写センター協同組合より一名理事を選任することとして、55社の入会が実現しました。

上記の案件は平成30年3月23日の平成29年度第四回理事会にて検討され満場一致で可決承認され、6月2日、福岡にて開催された第53回定時総会でも満場一致で可決承認されたものです。

これを受けてジャグラでは、平成30年度第二回理事会にて関東複写センター協同組合の位置づけを図る諸規程の変更をし、所属55社（10月1日現在54社＝下記リスト参照）が7月1日より入会いたしました。

今後は、ジャグラの運営（理事会）、諸事業の推進（委員会）にもご協力いただけることになっております。また、関東複写センター協同組合の位置づけは、当初、「当面の間」としておりましたが、7月の理事会にて「10年間」と区切って考えることになりましたので、あわせて報告いたします。

社名	代表者	所在地
(株)アイワ	井 寛明	神奈川
(株)アイワコピー	松岡 隆司	東京
青山プリント工業(株)	越山 健男	東京
亜細亜工業写真(株)	細井 武	神奈川
(株)イコープリント	井上 正行	東京
(株)エース	藤澤由衣子	東京
(株)エフ・アイ・エス	朝香 雅文	東京
(株)川又感光社	川又 俊之	茨城
(株)カントー	辻 美智男	東京
(株)カントー	佐藤 勝行	神奈川
共同写真(株)	古賀 正人	神奈川
(株)共立工業社	北島 雄二	東京
(株)ケーヨー	早坂 淳	東京
幸和技研(株)	杉山金太郎	東京
国際写真(株)	森迫 隆正	東京
(株)国際マイクロ写真工業社	森松 義喬	東京
(株)サーバ	細井 彰一	神奈川
桜工業写真(株)	青柳 正福	東京
(有)三商コピー	竹内 三夫	神奈川
(株)サンヨー	山根 昭裕	東京
写光情報システム(株)	布川 宏隆	東京
(株)シー・アンド・アール	朝香 雅文	神奈川
(株)シノヅカプリント	篠塚 隆雄	東京
(株)ジェー・イー・シー	國井 洋一	東京
城南ビジネスサービス(株)	小熊 俊之	東京
(株)青工社	中村 保男	神奈川
誠興社写真製本(株)	三井 健一	東京

社名	代表者	所在地
(株)青陽社	上堂園 修	神奈川
大昭工業写真(株)	平田 正人	東京
(株)ダイセイ	寺井 崇	東京
(株)ダイビス東京支店	瀧波 伸一	東京
(株)千葉コピーセンター	田中 学	千葉
チヨダクレス(株)	亀田 真司	東京
(株)東海コピー	砂田 隆治	東京
(有)東京コピー・サービス	池田 博之	東京
東洋青写真(株)	竹川 正彦	東京
ニッシン興業(株)	岡崎 信一	東京
ニッセイエプロ(株)	亀田 修平	東京
(株)ニトー・フレンド	相川 勝晴	東京
(株)日本工業社	米田 安司	東京
(株)ヒライデ	平出 伸二	神奈川
(株)フジテクノス	糸賀 一穂	東京
富士リプロ(株)	小又 和巳	東京
(有)ブックセンタークリエイト	柴田 昌彦	東京
(株)プラナ	中村 安次	東京
(有)プレテスタジオ	荻野 認	神奈川
(株)丸石	石毛 健雄	東京
(株)丸星コピーセンター	井上 高男	東京
(株)三千和商工	家令 光国	東京
ムサシ・イメージ情報(株)	小野 丞	東京
(株)ヤエス	後藤 眞	東京
山登(株)	山内 豊	東京
(有)ワイ工房	吉見 栄一	東京
(株)ワイシー・ドキュメント	朝香 雅文	神奈川

**会費値下げで  
一層ご利用しやすくなりました**

取引先とのトラブルを、解決したい！

個人情報保護の覚書って、どう書くの？

専任弁護士を雇う余裕は無いしなあ...

基本契約書の内容チェック、どうしよう？

**5万円/年 → 2万円/年**

## 法律相談ネットワーク 「グラフィックス法親会」のご案内

皆で入ろう、困った時のために！ いつでも気軽に相談できる、皆の法律専門家！

何かと相談事・悩み事の多い時代を迎えています。特に最近は経営上の係争が多く発生していますが、このような問題に直面したとき、気軽に相談できて、アドバイスをもらえる「顧問弁護士」が身近にいればなにかと心強いものです。しかし顧問弁護士料は普通最低でも50万円以上（年額）かかるといわれており、中小企業にとってその費用捻出は非常に困難です。

法律相談ネットワーク「グラフィックス法親会」は、「会費制によって、いつでも相談にのっていただける身近な顧問弁護士を持つ」というジャグラ会員有志のグループです。現在、専任としてお願いしている今西一男弁護士は、印刷業界に造詣が深く、これまでも様々なご相談に対応していただいております。経営の難しい時代、身近な法律相談ネットワークとして、出来るだけ多くの仲間に参加していただき、この会を育てていきたい所存であります。つきましては入会のご案内を申し上げる次第です。皆様のご参加をお待ちしております。



法親会・会長 添田隆男 (株式会社サンライズ / ジャグラ 18 代会長)

### 法律相談ネットワーク「グラフィックス法親会」の概要

- 専任 今西一男 弁護士
- 会費 20,000 円 / 年 (税別)  
※年度途中入会は月割換算 (年度末 12/31)
- 会員特典 ① 無料相談 (随時)  
※ 遠方の場合は電話・ファクスで対応  
② 情報交換会 (適時開催)
- 事務代行 (入会申込先・問い合わせ先)  
一般社団法人日本グラフィックサービス工業会・事務局  
東京都中央区日本橋小伝馬町 7-16 〒103-0001  
電話 03-3667-2271  
ファクス 03-3661-9006

### 入会申込書

申込日 20 年 月 日

fax.03-3661-9006

フリガナ	フリガナ
社名	氏名
住所	〒
Tel	Fax
	E-Mail

### ジャグラ

#### 8.31 OGS (大阪府支部) が 秋田でドローン研修

去る8月31日、OGS(大阪府支部)役員メンバーを中心に他府県のジャグラ会員も交えた総勢15名で、ドローンの研修を目的に秋田県仙北市を訪問しました。

×

仙北市は内閣府のロボティクス技術の推進施策の観点から創設された国家戦略特区の一つで、ドローンの実用化の実証検証をミッションとしています。一行は、当日正午過ぎに由緒ある「思い出の潟分校」を表敬訪問し、特区戦略室主任の明平英晃氏より仙北市の取り組みを紹介いただきました。次に、ジャグラ秋田県支部のくまがい印刷・熊谷健司氏による「スカイコンテンツ事業」の紹介、比較的操縦が容易な簡易ドローンの実地体験&レース機のデモ飛行見学により、ビジネスというイメージが湧きにくかったドローンコンテンツが俄かに鮮明になりました。

くまがい印刷さんは、秋田ドローンコミュニティという団体の事務局も運営されており、秋田市と災害協定を結び、有事の際にドローンによる被災地探索などを引き受けておられます。また、ドローンテクニカルチャレンジというドローンの操縦技術を競う全国大会を自治体と共同運営するなど、行政とタッグを組んだ地域活性化にチャレンジし、ドローン=くまがい印刷というブランディング確立に成功

され、自治体からの印刷受注にも結び付いているとのこと。

熊谷氏によると、「少子高齢化と政府の第4次産業革命に対する後押しの影響でロボット産業の成長は間違いのない。しかしドローンにしても、空撮請負のようなビジネスは既にレッドオーシャン。我々印刷会社が培ってきたコンテンツを加工する技術や幅広い顧客層を活用して、潜在ニーズを掘り起こし、新たな成長産業を創出することは可能ではないか。キーワードは災害対応、人命救助、効率化の「イノベーション」とのことでした。

東京等の都会と秋田のような地方都市では同じビジネスモデルは成立しないと思いますが、地方での市場創出の成功事例として、本研修で得られたものは大きいものでありました。先日のIGASで感じたことですが、各サプライヤーが提供する設備を導入しただけで儲かるわけでもなく、今回のドローンについても、それを使って顧客と社会にどう役立つかを明確にしていくことが、我々印刷会社に求められているミッションだと思った研修旅行でした。

OGSとしても、同じ商圏で同様の商いをしている組合員同士の交流では得られないインプットの機会を、更に提供していかなければならないと痛感しました。ジャグラの全国ネットワークはそのための最高のインフラですし、賛助会員の皆さまの協力も仰ぎながら、市場創出をテーマに今後も研修を企画していこうと参加者一同で確認しあい、帰路につきました。

(文: OGS 広報担当理事・木原庸裕)

### 日印産連

#### 9.12 日印産連「印刷の月」式典ひらく ジャグラより三氏・一団体が受賞 環境優良工場表彰では三社が同時受賞

ジャグラなど印刷関連10団体で構成する日印産連が、毎年恒例の「印刷の月」式典を、9月12日、東京のホテルニューオータニで開催しました。

×

式典は同日、東京のホテルニューオータニにて開催され、式典に先立ち、講演会が開催されました。テーマは最近話題になっている「SDGs」で、講師にサステナビリティ日

本フォーラム代表理事である後藤敏彦氏を迎え、『SDGsへの対応~大激変の時代、21世紀型ビジネスモデルの構築に役立たせる』というテーマでお話いただきました。

続いて「印刷の月」記念式典で表彰が執り行われ、日印産連表彰において、ジャグラから佐藤順前副会長が印刷功労賞を、岩下登前副会長と林田桂一前常任理事が印刷振興賞を、NPO法人日本自費出版ネットワークが特別賞をそれぞれ受賞しました。また環境優良工場表彰では、日本ハイコム(株)(長野)が会長賞を、電算印刷(株)(長野)と共栄印刷(株)(福島)が奨励賞を受賞しました。環境優良工場表彰において三社が同時受賞したのは、ジャグラとして初めての快挙となりました。

## DRONE

## AKITA



会場となった「思い出の潟分校」



講師の熊谷さん



ドローン実機の展示



仙北市のドローン取り組みの説明を受ける



簡易ドローンの実地体験



ドローン操縦で楽しそうな岡さん



レース機のドローン



レース機のデモ飛行



佐藤 順氏



岩下 登氏



林田 桂一氏



NPO 法人日本自費出版ネットワーク

#### ◎日印産連表彰

- 印刷功労賞 佐藤 順 / 新潟県 / 前副会長
- 印刷振興賞 岩下 登 / 大阪府 / 前副会長
- 印刷振興賞 林田 桂一 / 東京・城東 / 前常任理事
- 特別賞 NPO 法人日本自費出版ネットワーク

#### ◎環境優良工場表彰

- 会長賞 日本ハイコム(株) / 長野県
- 奨励賞 電算印刷(株) / 長野県
- 奨励賞 共栄印刷(株) / 福島県

ジャグラ

**9.8-9 SPACE-21 全国協議会山梨大会開催  
全国から 93 名の参加を得て盛況！  
新ロゴマークも決まる**

ジャグラ青年部 SPACE-21 は、9月8～9日、山梨県笛吹市にある石和温泉「糸柳」にて全国協議会山梨大会（若林祐斗実行委員長）を開催しました。また、本会と同時にジャグラ山梨の青年部 AUC の設立 40 周年記念式典も開催されました。

×

協議会には全国から 93 名が参加し、『よってけし、甲斐の国』をテーマに式典、講演、温泉、懇親会、エクスカージョンと多彩なプログラムが用意されました。

式典冒頭、本村 SPACE-21 代表幹事による主催者挨拶、中村ジャグラ会長による来賓挨拶、若林山梨大会実行委員長による挨拶がありました。また AUC40 周年記念式典では鈴木 AUC 会長による挨拶に続いて、若林 AUC 初代会長、樋貝ジャグラ山梨県支部長、斉藤山梨情報メディア研究会（Y-ING）理事長、本村 SPACE-21 代表幹事より祝辞を頂戴しました。

講演は、「名刺を最強の武器にする方法」と題し、TV に多数出演し紹介されているサイ・クリエイション代表の福田剛大氏が「次世代プリント名刺で初対面でも仕事が取れる方法」と題して、自らの体験談をちりばめた講演とロボットのペッパー君との掛け合いで会場を沸かせました。

その後の懇親会は、温泉タイムの後に開かれ、参加者のほとんどは浴衣姿に。若林実行委員長の開会の辞でスタート。山梨県印刷工業組合山内理事長による来賓挨拶、乾杯のご発声は SPACE-21 佐藤前代表幹事より頂く予定でしたが、佐藤前代表の発案で、現 SPACE-21 執行部の熊谷副代表幹事、黒沢副代表幹事、安達副代表幹事が自己紹介を兼ねた挨拶と乾杯の発声を行いました。

しばしの歓談後、SPACE-21 新ロゴコンテストの結果発表では、福岡県の大商印刷さん制作のロゴが選ばれ、同



上) SPACE-21 全国協議会が行われた山梨県笛吹市の石和温泉「糸柳」

右) 協議会全景



社早川慎平常務に本村代表幹事より祝福の言葉と副賞 5 万円が贈呈されました。

アトラクションであるマジックショーの後、次期 SPACE-21 全国協議会開催地である宮城大会の PR があり、東北から参加した 4 名（名久井幹事、熊谷副代表幹事、佐藤圭一幹事、青風会佐藤博人氏）が壇上に登り、佐藤圭一大会実行委員長から大会参加の要請がありました。加えて、栃木県青年部である GREENPRESS の 2 名（村田敏光氏、坂本明史氏）と関東地協メンバーにより、ジャグラ文化典栃木大会の PR もありました。

最後に、山梨印刷工業組合青年部の石水会長による中締めで、懇親会は盛会のうちにお開きとなりました。

二次会は同館内のラウンジで開かれ、参加者はここでも大いに懇親を深めました。

翌日のエクスカージョンは、大型観光バスで移動し、桔梗屋工場では銘菓・信玄餅の製造工程を見学、ぶどうの丘ではワインを試飲して昼食。帰路のバスでは旬のぶどうが振る舞われ、参加者は山梨グルメを大いに堪能しました。

(文：事務局・今田)

**SPACE-21 新ロゴ決定**

2020 年に 30 周年を迎える青年部 SPACE-21 は、新しいロゴマークを公募していましたが、このほど大商印刷(株)（福岡県）さん応募の作品を新ロゴマークとして選出しました。SPACE-21 メンバーであることを応募資格として公募していましたが、最終的に 13 点の応募があり、インター

ネット投票の結果、投票総数 103、1 位得票数 22 で選出されたものです。

新ロゴマークは、今後 SPACE-21 の主催するイベント、発行する印刷物等に使用することになっています。



本村 SPACE-21 代表幹事



中村ジャグラ会長



若林山梨大会実行委員長



鈴木 AUC 会長



樋貝山梨県支部長



講師の福田氏とペッパー君



懇親会



山梨青年部 AUC の皆さん



新ロゴ表彰 大商印刷・早川常務



銘菓・信玄餅の桔梗屋工場を見学



ぶどうの丘



ワイン試飲



バーベキュー会場



バーベキュー会場からの眺望



バーベキュー風景

# 新 知 孔 温

懐かしき謄写印刷とその魅力

—— 今こそ先達の精神を学ぶとき



ジャグラー山形県支部長 (中央印刷株)  
山形謄写印刷資料館 館長

後 藤 卓 也

続編

第20回：60年前の年賀状コンテスト (1959年版)

今年も組合主催で「年賀状デザインコンテスト」が開催されました。本連載第15回で、1950年(昭和25)から昭和30年代まで昭和謄写堂(現ショーワ)主催で行われていた謄写印刷時代の年賀状作品コンテストから「60年前の年賀状デザインコンテスト」と題して1958年(昭和33)の主要作品を紹介しましたが、今回はその翌年に行われた「第9回日本孔版賀状交換会」の主要作品を紹介いたします。

この年は、優秀賞3点に王冠ヤスリ工業より大中小のカップが授与、優秀賞5点に大島工業からシャチ賞として賞品が授与され、昭和謄写堂からも5点の優秀作品に対して機材が贈られました。今からちょうど60年前の、亥年、1959年(昭和34)の「全日本孔版年賀状交換会」について、作品を紹介しながら経緯を述べさせていただきます。

応募要項は昭和堂月報第89号(1958年9月発行)に掲載されていますが、詳細は前年とほぼ同じですので、興味ある方は、連載第15回(2017年8月号)をご覧ください。応募申込締切は1958年12月15日、作品提出期限は1959年1月15日でした。集まった作品を特製の箱に入れ、1月末日までに出品会員に届くように送る旨記載されています。出品するためには、全日本孔版賀状交換会会員にならなければならないが、会費は100円、申込みと同時に前払いでした。付則に「甚だしく粗悪なものは参加を取り消すもの」となっています。

賀状交換会の結果は月報第92号(1959年5月発行)で発表されています。作品提出者は180名、王冠賞1席=大野道男(滋賀)2席=加藤謙三(岐阜)3席=田村徳夫(山口)シャチ賞1席=佐藤正雄(岐阜)2席=柳沢範金(長野)3席=山福やすまさ(福岡)4席=細野秀男(岐阜)5席=塚越源七(東京)の作品が選ばれ、藤井よしお(香川)、大町達平(岡山)、高橋三弥(岩手)、田中照士(岩手)、

山本育男(神奈川)の人々に昭和謄写堂から入選賞品が授与されました。後年、一連の壺をモチーフとした作品で著名だった塚越源七が壺作品で初入選を果たしました。筆者には岩手県会員で何回も謄写印刷についてお話をお聞きした田中照士さんの名があるのが懐かしく感じられます。

出品者には出品者作品180枚に加え、招待参加作品26点が一緒になったものが送られました。招待参加作品には、昭和謄写堂社長の幅弓之助をはじめ、赤羽藤一郎・菅村驛一・小泉與吉・溝口政利・小西米作・三田幸次郎、また前年の最優秀者である矢野斌、齋藤文司といった謄写印刷史に残る人たちの作品が並び、何れも素晴らしい多色刷りです。招待参加作品・入選作品を紹介させていただきます。

昨年も書きましたが、我々の先達たちも70年以上前から全国規模で年賀状交換会という形でコンテストを行い、優秀作品制作に取り組んでいました。そして、年賀状のデザイン考案に悩み、全国優秀作品を参考に年賀状を制作していたのではないかと思います。パソコンやスマホ・プリンター等の発達のために年賀状印刷枚数はここ数年減少を続けていますが、今も主要商品の一つである事は間違いなく、年賀状優秀デザインの制作を通して技術向上をはかる姿勢は必要ではないかと思います。先達たちの制作姿勢を振り返り、同時に組合主催コンテストへの積極的参加と優秀作品の活用は重要な事と思います。



王冠賞1席  
大野道男 (滋賀)



王冠賞2席  
加藤謙三 (岐阜)



左からシャチ賞 1席 佐藤正雄 (岐阜)、2席 柳沢範金 (長野)、3席 山福やすまさ (福岡)、4席 細野秀男 (岐阜)



王冠賞3席  
田村徳夫 (山口)



王冠ヤスリ工業



シャチ賞5席 塚越源七 (東京)



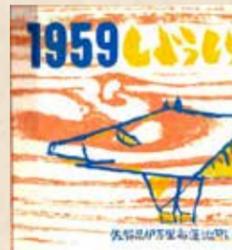
昭和謄写堂入選作 左から、藤井よしお (香川)、大町達平 (岡山)、高橋三弥 (岩手)



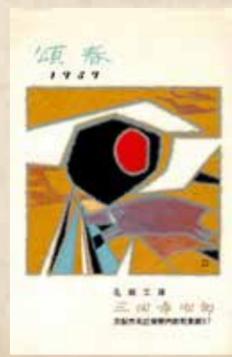
招待参加作品 左から 幅弓之助、赤羽藤一郎



昭和謄写堂入選作 左から  
田中照士 (岩手)、山本育男 (神奈川)



招待参加作品 左から、菅村驛一、小泉與吉、溝口政利、小西米作



招待参加作品 左から  
三田幸次郎、齋藤文司、矢野斌

## 月刊「グラフィックサービス」803号

■発行日 平成30年10月10日(毎月1回)  
 ■発行人 中村 耀  
 ■編集人 早坂 淳  
 ■発行所 一般社団法人 日本グラフィックサービス工業会 略称ジャグラ  
 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町7-16  
 TEL 03-3667-2271  
 FAX 03-3661-9006  
 WEB <https://www.jagra.or.jp/>

ジャグラは一般社団法人日本情報経済社会推進協会指定のプライバシーマーク指定審査機関です

■編集部 メール [edit@jagra.or.jp](mailto:edit@jagra.or.jp)

### ◎原稿 / 編集 / 校正

沖 敬三 守田 輝夫 長島 安雄  
 酒井 玲子 並木 清乃 阿部奈津子  
 今田 豪 (以上、ジャグラ事務局)  
 斎藤 成 (東京グラフィックス / 広報委員)  
 藤尾 泰一 (㈱インフォ・ディー)  
 日経印刷㈱ (校正のみ)

### ◎組版 / デザイン (㈱インフォ・ディー)

組版 = Adobe CS6/CC  
 フォント = モリサワ OTF (ほか)

### ◎印刷 日経印刷㈱ (東京・千代田支部)

RIP = 大日本スクリーン Trueflow  
 CTP = 富士フィルム XP-1310R  
 刷版 = 大日本スクリーン PT-R8800ZX  
 印刷機 = ハイデルベルグ社 SM102-8P  
 インキ = DIC  
 用紙 = 三菱ニューVマット FSC-MX 菊判 62.5kg  
 ※本誌はFSC森林認証紙(管理された森林の木から作られた紙)とLED-UVインキ(リサイクル対応型)を用い、環境に配慮した印刷工場で生産されています。  
<https://www.nik-prt.co.jp/>

Copyright 2018 JaGra / 禁無断引用

※本誌記載の製品名は一般に各メーカーの登録商標です。また、原則TM・®マークは省略しています。※乱丁 / 落丁本はお取り替えいたします。



## 事務局日誌と今後のスケジュール

### 2018年9月 事務局日誌

- 1日 全国製本大会(愛知) →岡本副会長
- 3日 ジャグラコンテスト部会、教育・技術委員会
- 5日 日本自費出版文化賞大賞最終選考会&記者発表(吉祥寺・東急イン) →中村会長ほか
- 6日 プライバシーマーク現地審査(愛知)
- 7日 プライバシーマーク現地審査(愛知)
- 8日 SPACE-21 幹事会(山梨・石和温泉「糸柳」) →事務局、SPACE-21 全国協議会(山梨・石和温泉「糸柳」) →中村会長・沖専務ほか
- 10日 経営基盤強化委員会、JIPDEC プライバシーマーク推進センター長来局 →斎藤プライバシーマーク審査センター長ほか
- 11日 プライバシーマーク審査会、M&A 部会
- 12日 総務委員会、日印産連「印刷の月」式典
- 13日 ビジネス推進委員会打合せ
- 14日 プライバシーマーク現地審査(秋田)
- 18日 山本副会長ヒアリング →守田常務、プライバシーマーク現地審査(大阪)
- 19日 プライバシーマーク現地審査(大阪)、広報部会
- 20日 Pマーク審査機関会議(仙台) →斎藤プライバシーマーク審査センター長
- 21日 プライバシーマーク現地審査(栃木)
- 25日 プライバシーマーク現地審査(大阪)
- 28日 ビジネス推進委員会打合せ

### 2018年10月の予定(10.10時点)

- 1日 プライバシーマーク現地審査(大阪)
- 2日 プライバシーマーク現地審査(大阪)
- 5日 全印工連全国大会(高知) →中越副会長、NPO 法人日本自費出版ネットワーク「自費出版アドバイザー養成講座」(ニッケイビル)
- 6日 日本自費出版文化賞大賞表彰式(アルカディア市ヶ谷) →中村会長ほか、東グラフィスタ(都立産業貿易センター「台東館」)
- 9日 プライバシーマーク現地審査(兵庫)
- 10日 プライバシーマーク現地審査(大阪)
- 12日 教育・技術委員会、(株)ショーワ90周年感謝の集い(ホテルメトロポリタン) →中村会長・沖専務理事
- 13日 ジャグラコンテスト第二次審査(ニッケイビル)
- 17日 プライバシーマーク審査会、日印産連ステアリングコミッティー →沖専務理事
- 18日 日印産連専務理事連絡会議 →欠席、プライバシーマーク現地審査(石川)
- 23日 広報部会、KOMORI 会総会(ホテルイースト21)
- 25日 CSR委員会・環境部会、JAGAT 理事会
- 27日 SPACE-21 幹事会(熊本) →事務局

### 2018年11月の予定(10.10時点)

- 1日 プライバシーマーク現地審査(岩手)
- 5日 プライバシーマーク現地審査(長野)
- 6日 プライバシーマーク現地審査(長野)
- 7日 日印産連「印刷と私」表彰式
- 8日 M&A 部会、日印機協総会(如水会館) →中村会長・沖専務・守田常務
- 9日 理事会、全国協議会
- 10日 全国協議会、総務委員会
- 14日 プライバシーマーク現地審査(千葉)
- 16日 ビジネス推進委員会
- 19日 プライバシーマーク現地審査(大阪)
- 20日 プライバシーマーク現地審査(大阪)
- 22日 近畿地協総会(奈良ホテル)、環境部会インタビュー(㈱文伸様)
- 26日 経営基盤強化委員会
- 28日 プライバシーマーク現地審査(大阪)
- 29日 プライバシーマーク現地審査(京都)

### 最新スケジュールは公式HPで!

ジャグラ関係の会議などのイベント日程の最新情報は、公式ホームページにてご案内しています(<https://www.jagra.or.jp/events/>)。Google カレンダーと連動していますので、ご自身のスマホに日程を取り込むことができ大変便利です。ぜひご利用ください。

2018年10月号

# ジャグラBB HOT NEWS



## 「仕事に役立つAdobe CCシリーズ」配信開始!

DTP&Webクリエイター、講師、テクニカルライターとして幅広く活躍中の鷹野雅弘氏が手掛ける待望のトレーニング番組「仕事に役立つAdobe CC～知らないと損をする○○の仕事術」シリーズの配信がスタートしました。DTP三種の神器であるIllustrator, Photoshop, InDesignについて、DTPオペレーターのかゆいところに手が届く制作時短テクニックをギュッと詰め込んでお送りします。ぜひご覧ください!

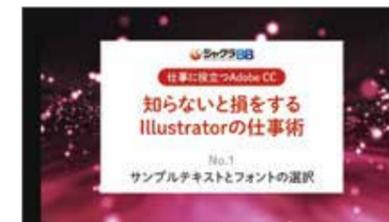


仕事に役立つAdobe CC シリーズ ▶最新情報はWebでチェック! <https://www.jagrabb.net>



### 知らないと損をする Photoshopの仕事術(No.1~3)

- ①カラーテーマの変更と角度補正
  - ②キャンバスの拡張と画像の切り抜き
  - ③シャドウ・ハイライトとスマートオブジェクト
- 時間:①11分53秒 ②12分7秒 ③10分57秒  
 会員限定番組



### 知らないと損をする Illustratorの仕事術(No.1~3)

- ①サンプルテキストとフォントの選択
  - ②複合シェイプ、文字タッチツール
  - ③ライブシェイプとグローバルカラー
- 時間:①9分11秒 ②11分12秒 ③8分11秒  
 会員限定番組



### 知らないと損をする InDesignの仕事術(No.1~2)

- ①次のスタイルと自動番号
  - ②データ結合(変数)
- 時間:①8分14秒 ②10分59秒  
 会員限定番組

## ワザコレ! 動画募集のご案内

ジャグラBBでは「ワザコレ!」シリーズで配信する投稿映像を募集しています。みなさんの会社のノウハウを動画で紹介してみませんか? 採用された方には1000円相当の商品券を進呈します。ふるってご応募くださいませ。

### ワザコレ! 動画応募方法

簡単な内容説明、動画の長さ(撮影編集済の場合)をご記入の上、ジャグラBB企画部会までメールでご連絡ください。追って担当者よりご連絡します。  
 応募先メールアドレス: [jagrabb@jagra.or.jp](mailto:jagrabb@jagra.or.jp)



ジャグラBB 新規ID登録ページURL  
[https://www.jagrabb.net/app\\_mail.php](https://www.jagrabb.net/app_mail.php)



# Assist Your Potential

— 技術力と創造力で、あなたの可能性を支援する —



ロボットが自動給紙



ロボットが次工程へ製品運搬



LED-UV 封筒印刷システム



IoT 技術による遠隔支援システム



クラウドを活用した印刷情報の「見える化」



インキ・無処理版メーカーとのコラボレーション

日ごとに厳しさを増す、短納期ニーズや品質管理要求にこたえる印刷の現場。RMGT は、2018 年 7 月に開催された IGAS 2018 において、印刷機の自動化・省力化、ロボットによる給紙や印刷物の次工程運搬、IoT やクラウドの技術を活用した見える化・サポートをご提案しました。RMGT の自動化・省力化技術は人を援<sup>たす</sup>け、時間と労力を費やす作業を代行します。そして、人が中心になって機械や技術を使いこなす世界を目指します。

RMGT ブースの様子を紹介したダイジェスト動画を公開しています。右の QR コードからアクセスして、ご覧ください。QR コードが読み取れない場合は、下記 URL からアクセスしてください。  
<https://youtu.be/fc-zUM-2Q2o?t=4>



YouTube 動画 URL



ともに、世界へ彩りを。

**リョービMHIグラフィックテクノロジー株式会社**

〒726-0002 広島県府中市鞆飼町 800-2 TEL 0847-40-1600

<http://www.ryobi-group.co.jp/graphic/>